

## 第5章 取組の方向性

水道は市民生活や社会活動を支える重要なライフラインであり、お客さまに安全で良質な水をいつでも安定してお届けすることが最大の使命です。

そのためには、老朽化した施設の更新・耐震化を着実に進めて、大規模地震などの災害発生時にも被害を最小限にとどめ、迅速に復旧できる<sup>きょうじん</sup>強靱な水道システムを築く必要があります。

また、水源から取水した水を浄水して蛇口までお届けする過程では多くの電力を消費しており、温暖化対策が世界的な課題となる中で、環境負荷低減の取組が今後ますます求められます。

さらに、お客さまが必要とする情報やサービスを提供することと併せて、地域の課題や国内外の水道事業が抱える課題の解決に広く貢献することは、地方公営企業として果たすべき重要な責務です。

一方、工業用水道は、産業の健全な発展と市内経済の活性化に資するため、老朽化した施設の更新・耐震化や利用者の拡大を進めていくことが求められています。

これらの水道局に求められる役割を果たしていくためには、効率的な執行体制を築くとともに、財政基盤を強化するなど、不断の経営改革に取り組み、持続可能な事業運営を実現していく必要があります。

そこで、第4章で描いた目指す将来像の実現に向け、次の6つを重点的な取組の方向性として事業を推進していきます。

## 1 安全で良質な水

水源保全や厳しい水質管理など安全な水を造る取組を進めるほか、お客さまの給水装置等を管理の行き届いた衛生的な状態にするサポートなどに取り組みます。

また、老朽化した西谷浄水場は、原水水質に適した浄水処理方法を導入して再整備を進め、今後も「安全で良質な水」をお客さまに確実にお届けします。

## 2 災害に強い水道

家庭や地域における自助・共助の取組や他都市との応援体制の強化などを進めます。

また、大規模地震などの自然災害に備えて、浄水場や配水池などの基幹施設や管路の耐震化などを着実に進めます。

このように、ハード・ソフト両面で、被害の最小化と復旧の迅速化に向けて取り組みます。

## 3 環境にやさしい水道

これまでに培ってきた技術力と経験の蓄積を生かして、より一層の再生可能エネルギーの活用や、電力に依存しない自然流下系施設の優先利用のため下流の取水地点を上流に移転する検討を進めるなど、環境・エネルギー対策に取り組みます。

また、道志村、市民ボランティア、企業などと連携して、様々な手法で道志水源林の保全に取り組みます。

## 4 充実した情報とサービス

ICT を活用して、お客さまが知りたい情報や利便性の高いサービスの提供に取り組むとともに、地域の住民・団体の皆さまなどと連携を深めて、お客さまと直接接するコミュニケーションの充実を目指します。

また、これらの取組を通じてお客さまの御意見を受け止めるなど双方向のコミュニケーションを進めて、水道事業に対する信頼の向上を図ります。

## 5 国内外における社会貢献

地方公営企業として、地域特性に応じたニーズに的確に対応し、地域の課題解決に貢献するとともに、市内経済の発展に寄与します。

また、横浜ウォーター株式会社と連携して、国内の水道事業体や被災地、さらには海外の水道事業に対して、技術・人材育成面で支援・協力を進めるほか、市内企業のビジネスチャンスの創出に取り組みます。

## 6 持続可能な経営基盤

徹底的な経費削減と収入の確保により財源の確保に努めるとともに、技術の継承と人材の育成を進め、経営基盤の強化を図ります。

また、県内の水道事業体と連携し、水需要に合わせて施設規模の適正化を図るほか、アセットマネジメント手法により、着実な施設整備と健全な財政基盤の両立を目指し、元気で活力ある水道を次世代に継承します。

